

Carpet Care Manual

カーペットケアマニュアル

Interface®

目次

01	計画 - クリーニングとメンテナンス	PG3
	外観の維持	
	汚れ防止と日常のメンテナンス	
	応急処置	
	a) 水溶性汚れ	
	b) 油性汚れ	
	c) ガムの除去	
	日常のシミ抜き	
02	メンテナンス・プログラムの立案	PG5
	日常のメンテナンス	
	中間メンテナンス	
	定期メンテナンス	
03	メンテナンス方法	PG8
	バキューム機材に関して	
	中間・定期メンテナンス方法	
	a) ドライ抽出法 (低湿吸収剤)	
	b) ボンネット・クリーニング	
	c) カプセル化・結晶化剤	
	d) スチーム洗浄	
	e) 薬剤	
04	覚えておきたいキー・ポイント	PG10

付録

01	スポットクリーニングと解決ガイド	PG11
	日常のシミ抜きなど	
02	メンテナンス推奨機材	PG14

01 計画 - クリーニングとメンテナンス

インターフェイスのタイルカーペットを購入後、製品を最も長くご利用頂くためには計画性のあるメンテナンス・プログラムを組み立てることが大切です。カーペットが過度に汚れた後にお手入れをしても、製品の美観を長く維持できなくなる恐れがあります。

計画に従って、重歩行エリアや汚れやすいエリアを集中的にメンテナンスしながら、定期的なクリーニングで全エリアをカバーすることによって、インターフェイス製品本来の機能を長く保ち続けることができます。

外観の維持

施工後、インターフェイス製品の外観に影響を与える大きな要素が2つあります。

- a) 繊維のつぶれ、もつれ、色むら
- b) 汚れ、変色、シミ

インターフェイス製品の外観維持に必要なことは

- a) その空間の使用目的にあった製品の選択
- b) シミが定着しないように定期的クリーニング
繊維のもつれや、毛玉の抑制

汚れ防止と日常のメンテナンス

汚れの原因のほとんどが歩行によって持ち込まれカーペットに付着して広がりますが、効果的なダストコントロールマットの設置の仕方によって汚れの度合を大幅に減らすことができます。建物の出入口や硬質系床材との隣接部の全てに3メートル以上の範囲にダストコントロールマットを設置してください。より詳しいご案内は、インターフェイス(03-5733-5211)までご相談ください。

ダストコントロールマットは毎日清掃してください。これはメンテナンス上とても重要です。ダストコントロールマットに汚れが大量につまってしまうと効果を発揮できません。

コンクリート隣接部の全てに、適切な樹脂製シーラーを塗布してください。砂、小石、セメント粒子等がカーペットに持ち込まれるのを防ぎます。エポキシ樹脂又はウレタン樹脂シーラーの使用をお勧めします。

シーラーを施工した箇所は、毎日十分な清掃が必要です。目に見える汚れやシミはモップに中性洗剤を付けて取り除いてください。

インターフェイスの製品に防汚スプレーを使用することはお勧めしません。

ダストコントロールマットは、出入口・搬入口・硬質系床材との隣接部の全てに3メートル以上の範囲に設置してください。

注意:
予備のタイルカーペットと交換した場合、製品や色によって既存のカーペットと馴染むまで新しく貼り替えた部分が分かりやすく見える場合があります。

塗料、油汚れ、タール、アスファルト等の油性汚れには、溶剤系のシミ抜き剤を推奨します。

応急処置

汚れやシミは、スポット・クリーニング・キットを用いて直ちに対処すると大抵が除去できます。

製品が汚れた場合には、まず以下の通りに処置を行ってください。

- 液体による汚れの場合、清潔な白い布で液体をできる限り吸い取る
- 半乾き状の物質による汚れの場合、スプーンまたはヘラで汚れを取り、適度にぬらしたスポンジで吸い取る
- 汚れた部分の外側から中心に向けて取る
- 汚れが広がるのを防ぐため、水分を含んだ汚れを決してこすらない

インターフェイスのタイルカーペットの利点は、汚れがきれいに落とせなかったとしても、部分的に予備のタイルカーペットと交換できることです。

水溶性汚れ

前述の通りの応急処置を行った後、直ちに少量の吸収剤とハンドブラシで残った汚れを取り除いてください。汚れた箇所に吸収剤をかけ、ハンドブラシを用いて優しくなじませます。吸収剤をかけた箇所を乾燥させたら(15~30分)、再びブラシを用いて吸収剤をなじませてください。もし吸収剤がカーペットに密着した場合には、ブラシをかけて吸収剤を掃除機で取り除きます。必要に応じてこの手順を繰り返してください。なお、汚れをブラシで強くこすらないでください。

コーヒー、紅茶、果汁類、炭酸飲料等のしつこい汚れには汎用シミ抜き剤を用いて、以下の手順で処置してください。

1. 事前に目立たない小さな箇所で変色起きないか確認をする
2. 少量の汎用シミ抜き剤と水を用いて汚れをとる
3. 布またはペーパータオルで叩き、乾かす
4. 必要に応じて、上記の手順を繰り返す

※シミ抜き剤をご使用の場合は、定められた使用法を厳守してください。

油性汚れ

塗料、油汚れ、タール、アスファルト等の油性の汚れには、溶剤系のシミ抜き剤を推奨します。溶剤系のシミ抜き剤を使用する際には特に注意が必要です。

退色堅牢度を確かめるため、カーペットの目立たない部分で事前にテストすることが重要です。白い布にシミ抜き剤を染み込ませ、優しくカーペットに押しつけます。カーペットの色が布に移った場合は、シミ抜き剤の使用をやめてください。

清潔な白い布に、少量の溶剤系のシミ抜き剤を取って汚れにあててください。この際、汚れが広がるのを防ぐために絶対にこすらないでください。汚れの外側から中心に向けて優しく拭き、汚れが取れるまでこの手順を繰り返します。乾燥するまで、清潔な白いタオルか、吸収力のあるペーパータオルを乗せます。吸収剤を使用する場合と同じ手順に従って乾燥させてください。





ガムの除去

ガムを除去する際には、下記の手順で行ってください。

1. 溶剤系シミ抜き剤を直接ガムにつける
2. ガムが溶剤系シミ抜き剤により柔らかくなるまで数分待つ
3. 塗料をはがす際に用いるスクレーパーかナイフで、ガムをできる限り多く取り除く
4. 清潔な白い布に少量の溶剤系シミ抜き剤をつける
5. 汚れの外側から中心に向かって、残りのガムを取る
6. 清潔な水でぬらした布で拭き取る

部分洗浄の後、繊維に残った洗剤は清潔な水で拭き取ることをお勧めします。

洗浄した部分が再び急速に汚染されるのを防ぐことができます。

日常のシミ抜き

様々な汚れに対応できるように、スポット・クリーニング・キットがいつでも使用できるようにしてください。承認された方法を用いても残った汚れやシミは全て日々の作業記録に残してください。記録は、試みた除去方法も含め、後日参照できるようにします。残った汚れは、放置すると除去することが難しくなり、より一層汚れていくことにつながります。

汚れ除去に関するより詳しい情報は、本マニュアル付録1 スポットクリーニングと解決ガイド 11ページをご参照ください。

02 メンテナンス・プログラムの立案

適切なメンテナンスは、製品本来の性能を発揮させます。一方で、適切なメンテナンスが行われていない場合は、製品寿命を縮めたり製品の外観を損ねることにつながります。

メンテナンス・プログラムは、購入した製品の寿命・外観を適正に維持するためのプログラムです。メンテナンス・プログラムを立案するには、それぞれのエリアの歩行量及び汚れの度合いを考慮しながら、施工されたエリア全体を網羅します。(図1と表1を参照)

クリーニングの頻度は、インターフェイスまでご相談の上決定してください。不適切な方法、頻度では、保証が無効になる場合があります。

メンテナンス・プログラムは、各施設に合わせて組み立てる必要があります。

注：適切なメンテナンスは、製品本来の性能を発揮させます。一方で、適切なメンテナンスが行われていない場合は、製品の寿命を縮めたり外観を損ねることにつながります。

日常のシミ抜き

日常のメンテナンスでは、バキュームがけとスポット・クリーニング・キットを用いたシミ抜きを行います。重歩行エリアではより頻度の高い定期清掃が必要な場合があります。バキュームがけを行う際は、必ず推奨されている機材を用いて、一定の速度で行います。バキュームのかけ残しがないように、折り返す際にはバキューム走行部分の端が重なるように走行してください。

中間メンテナンス

中間メンテナンスは、基本的に毎週又は毎月、あるいは必要に応じて実行します。適宜、中間メンテナンス用の方法で行います。メンテナンス計画において中間メンテナンスが必要なエリアを決定します。通常、中間メンテナンスは、中歩行～重歩行エリアに行います。メンテナンス・プログラムは施設ごとに異なるため、中間メンテナンスと定期メンテナンスの組み合わせにバリエーションがあります。

定期メンテナンス

メンテナンス・プログラムでは、カーペットが施工されたエリア全体を網羅して定期的に行う定期クリーニングが必要です。スチーム・エクストラクターを用いて、3か月ごと、6か月ごと、又は12か月ごとに行うことが重要です。これにより、製品の美観を全体的に維持することができます。

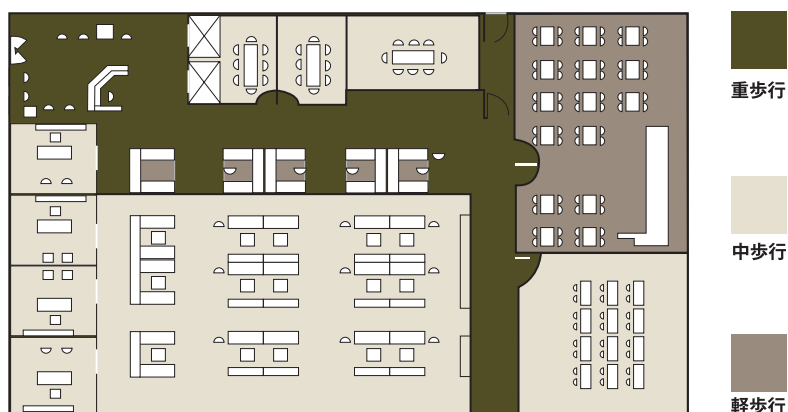


図1：メンテナンス・プログラムのための歩行量見取り図例



エリア	歩行程度	推奨メンテナンス	推奨頻度	最小頻度
住宅など	軽歩行	バキュームがけ	週に2回	1週間毎
		シミ抜き	毎日 ーできる限り早く	毎日 ーできる限り早く
		中間クリーニング	6か月毎	18か月毎
		定期的な修復または定期クリーニング	1年毎	2年毎
役員エリア	軽歩行	バキュームがけ	週に2回	1週間毎
		シミ抜き	毎日 ーできる限り早く	毎日 ーできる限り早く
		中間クリーニング	9か月毎	18か月毎
		定期的な修復または定期クリーニング	18か月毎	3年毎
一般オフィス 病棟、ホテル客室	中歩行	バキュームがけ	週に3回	週に2回
		シミ抜き	毎日 ーできる限り早く	毎日 ーできる限り早く
		中間クリーニング	6か月毎	1年毎
		定期的な修復または定期クリーニング	1年毎	2年毎
廊下、玄関、店舗の1階、 ホテルラウンジ、幼稚園、 学校の教室	重歩行	バキュームがけ	毎日	週に3回
		シミ抜き	毎日 ーできる限り早く	毎日 ーできる限り早く
		中間クリーニング	3か月毎	6か月毎
		定期的な修復または定期クリーニング	6か月毎	1年毎
レストラン、学校の廊下、 病院の共用部	重歩行	バキュームがけ	毎日	毎日
		シミ抜き	毎日 ーできる限り早く	毎日 ーできる限り早く
		中間クリーニング	月に1回	2か月毎
		定期的な修復または定期クリーニング	3か月毎	6か月毎

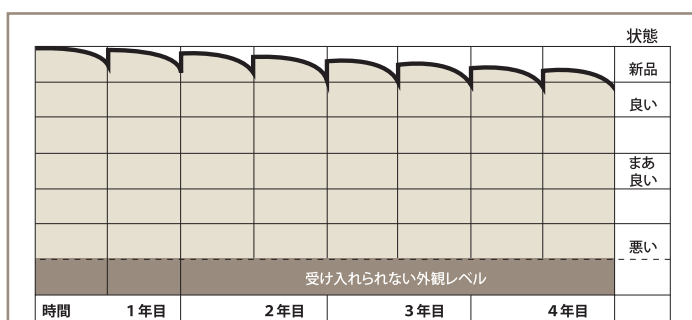


図2：計画されたメンテナンスプログラムを活用した場合のカーペット外観の程度の変化

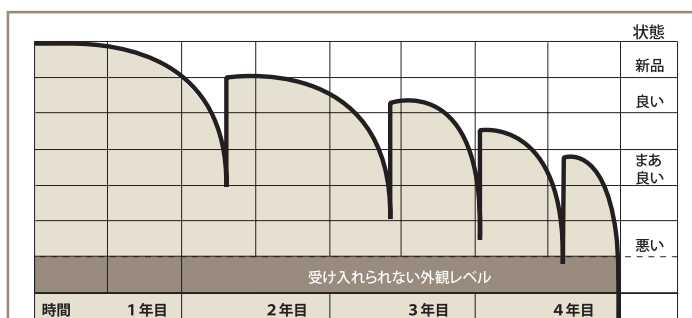


図3：メンテナンスプログラムが無計画な場合のカーペット外観の程度の変化

カーペットの外観の程度： 計画されたプログラムの場合

計画的なメンテナンスプログラム：

- ・ 歩行エリアとシミに最も注意を払う。
- ・ 外観は毎日良い状態。カーペットの寿命が長くなる。

カーペットの外観の程度： 無計画な場合

無計画ー危機的なクリーニング：

- ・ カーペットはクリーニング実施以前に過度に汚れている。
- ・ 外観はくすんでいる。摩耗する前に外観が酷くなる。



メンテナンス・プログラムの
実行には、正しい機材を
必ず使用しなくてはなりません。

注意：ロータリー・ボンネット法を
インターフェイス製品に行うことは
お薦めしません。
ドライパウダーとプレ・スプレーを
なじませる際は、
シリンダーブラシの機械を
使用してください。
丸いロータリーブラシ付機械と
そのクリーニング方法を
使用すると、全ての保証が
無効となるおそれがあります。

03 メンテナンス方法

メンテナンス・プログラムの実行には、正しい機材を必ず使用しなくてはなりません。承認されていない又は誤った方法や機材、化学薬品を製品に用いると、カーペットにダメージを与えることにつながるため保証が無効になることがあります。
(*1)スーパーフロア及び平織りタイプの製品(フラットウィーブ・コレクション等)には、パイルリフターは絶対に使用しないでください。

バキューム機材に関して

バキューム機材に関しては、以下の機材の使用を推奨します。

- ・ 業務用キャニスタータイプバキューム
(電動モーター駆動のシリンダー型回転ブラシのパワーヘッド付き)
- ・ 業務用トップローダー直立型バキューム
(ツインモーター、シリンダー型回転ブラシ付き)

上記のどちらのバキュームにも下記の3点が必要です。

- ・ ヘリや隠れたエリアにも届く器具を装着していること
- ・ 0.5ミクロン以上の塵97.5%が集塵可能なフィルター・システム
- ・ 使い捨てタイプのダストバッグ(14頁のメンテナンス推奨機材を参照)

注意：スーパーフロア及び平織りタイプの製品(フラットウィーブ・コレクション等)は、吸引のみの(ブラシ無し)バキュームを使用してください。丸いロータリーブラシ付きの機器の使用は推奨しません。

中間・定期メンテナンスの方法

下記のとおり推奨しているクリーニング方法は、インターフェイスまたはIICRC等のクリーニング・メンテナンススペシャリスト育成を行う団体から研修・認証を受けたオペレーターにより行われなければなりません。

a) ドライ抽出法(低湿吸収剤)(中間)

ドライ抽出法は、低湿吸収剤をカーペット表面になじませ、汚れやシミを除去します。残った吸収剤はバキュームで吸い出します。

方法：

1. パイルリフターを十分にかけ、バキュームをかける(*1)
2. メーカー使用説明書に従い乾燥吸湿剤を散布する
3. メーカー使用説明書に従いブラシで吸湿剤を軽くなじませる
4. カーペットに残った吸湿剤をバキュームで吸い取る
5. 1年に1回程度、又は各施設向けメンテナンス計画記載の頻度に従い、ドライ抽出法と同時にスチームエクストラクターをかけることを推奨

注意：ボンネット・クリーニングは、中間又は定期メンテナンスのどちらにもお薦めしません。

注意：推奨機材・手順では清掃直後含まれる水分をタイル1枚あたり30グラム未満に抑えなくてはなりません。

注意：ロータリー・ボンネット法をインターフェイス製品を行うことは推奨しません。ドライパウダーとプレ・スプレーをなじませる際は、シリンダーブラシの機械を使用してください。丸いロータリーブラシ付機械とそのクリーニング方法を 사용하면、全ての保証が無効となるおそれがあります。

b) カプセル化・結晶化洗剤（中間）

カプセル化・結晶化洗剤の洗浄は、低湿法の一つで、ドライ抽出法と似ています。この洗浄の利点は、乾燥時間が短いことによりスチーム洗浄より早くクリーニングされたエリアの利用を再開できることです。

事前に必ずバキューム及びパイルリフターをかけます(*1)。カプセル化・結晶化洗剤を電動式のスプレー、簡単な園芸用のポンプ式スプレー、又は3ヘッドロータリー機で吹きかけます。その後タイルカーペットを優しくブラシ掛けし、溶液が繊維全体になじめば、大抵の蓄積汚れを取り除くことができます。

溶液が乾燥し繊維の周囲でカプセル化・結晶化するのに時間がかかりますが、大抵の汚れ・汚染物質も効果的に捕えることができます。湿度、空気の流れ、周囲温度など複数の要素により、乾燥時間は異なりますが、60分以上を目安としてください。一旦乾燥させてから、該当エリアのバキュームをかけ、その後、パイルリフターをかけてください(*1)。

c) ボンネット・クリーニング

注意：ボンネット・クリーニングは推奨しません。この方法を用いると、全ての保証が無効となるおそれがあります。

d) スチーム洗浄（中間・定期）

スチーム洗浄は、承認された化学薬品を事前にスプレーし、承認された機材・手順を用いて清潔な温水で吸い出す方式です。定期的な修復または定期クリーニングを行う際は、研修を受講し認証を受けたカーペットメンテナンス技術者が行うことをお薦めします。清掃中の室内騒音レベルを低減するためには、キャスター付きの抽出ユニットを利用して下さい。乾燥を促進するために、送風機を使ってください。

方法：

事前に、承認された抽出用前処理剤をカーペットに散布します。ワンド又は自給式エクストラクターで溶液バルブを操作しながら、清潔な温水だけを散布します。溶液バルブを開く前に、機材を手前の方向に1～1.5メートル引き寄せてください。

カーペットから出来るだけ多くの水分を確実に回収するため、溶液バルブを閉じたままで同じエリアを2～3回作業します。未作業の部分の洗浄にうつる際、およそ50mm幅作業エリアを重ねてください。清掃中、洗浄が完了したエリアの乾燥を促進させるため送風機を置き、完全に乾燥させてから清掃したエリアの利用を再開してください。この作業を怠ると、再び汚れる原因となる上に、カーペット繊維にダメージを与えることにつながります。

重度に汚れたエリアでは、洗剤を事前にスプレーした際、シリンダー型ブラシ機で攪拌する場合があります。



e) 薬剤

カーペットは化学薬品に反応しやすい繊維で作られています。よって推奨されていない化学薬品を使用すると製品にダメージを与えてしまうことがあります。前処理剤やシミ抜きは、承認された洗剤だけを、必要に応じて使ってください。日々のシミ抜きには、スポット・クリーニング・キットをお薦めします。また、シミ抜きや前処理剤のpHレベルは4.5～8.5です。

製品に対して、静電加工、工学的光沢剤、カーペット保護剤、過度に強力な溶剤を含むクリーナーを使用することはお薦めしておりません。

04 覚えておきたいキー・ポイント

出入口付近

一番効果的な汚れ防止は、出入口および硬質系床材との隣接部の全てに、ダストコントロールマットエリアを設置することです。ダストコントロールマットエリアは、毎日もしくは必要に応じてバキュームをかけてください。

バキューム機材に関して

業務用直立式デュアルモーターで、シリンダー型ブラシ付きのもの、又は当マニュアル 8 頁に記載された機材を使ってください。

パイル・リフター

モーター式商業用パイル・リフターなどの通常のパイル・リフターなら、繊維を直立、分離させることが出来ます。パイル・リフターを使うと、繊維のもつれを軽減するだけでなく、バキュームがけの効果も上がります。なお、汚れを取りやすいのは、カーペットがぬれている時ではなく乾燥している時です。

スーパーフロア及び平織りタイプの製品（フラットウィーブ・コレクション等）には、パイルリフターは絶対に使用しないでください。

シミ抜き

汚れが付着した直後にシミ抜きをすれば、クリーニングの頻度を下げることが出来ます。

水分を抑える

過度の水分を使用すると乾燥時間が長くなり、二次汚染の可能性が高くなります。出来る限り使用する水を抑えてクリーニングしてください。

通行

クリーニングが完了したエリアの利用を再開する前に、カーペットを完全に乾燥させてください。もし、カーペットが完全に乾燥する前に通行を再開した場合は、すぐに汚れる原因となる上に、カーペット繊維にダメージを与えてしまいます。

付録

01 スポットクリーニングと解決ガイド

下記の表の各シミの種類に対してスポットクリーニングを行う際には、「1」を試してみて、続いて「2」を試してみてください。それでもシミが取れない場合は、「3」を行ってください。

* 短時間で出来る低湿・低臭のその他の方法としてドライパウダーを使用できる場合もあります。

** シミ抜きを行う前にバキュームをかけてから、溶液を使うことをお勧めします。

シミの種類	汎用シミ抜き剤	溶剤ベースのシミ抜き剤	酵素系/殺菌シミ抜き剤	ドライパウダー
接着剤		1		
動物性シミ			1	*
アスファルト		1		
色の濃い果物	1			*
血液	1-メディザイム		2	
バター	1	2		*
キャンドルワックス		1		
炭など**		1		*
セメント**	1			*
木炭	1	2		*
チューイングガム		1		
コーヒー	1			*
コーラ	1			*
印刷用トナー**	1	2		*
果汁飲料	1			
修正液		1		
クレヨン		1		*
クリーム	1			*
洗剤	1			*
土汚れ、糞	1		2	*
食器洗い洗剤	1			*
染料		1		
卵	1			*
脂肪	1			*
排泄物			1	
食べ物の油よごれ	1	2		*
果汁	1			
家具のつや出し剤	1	2		
のり(水性)	1			
のり(溶剤性)		1		
ブドウ果汁	1			
草によるシミ	1			*
グレーピーソース	1			*

シミの種類	汎用シミ抜き剤	溶剤ベースのシミ抜き剤	酵素系/殺菌シミ抜き剤	ドライパウダー
アイスクリーム	1			*
インク		1		
ヨウ素	ベータオフ			
ゼリー	1			*
ラテックス接着剤		1		
口紅		1		*
色の濃いキャンディ	1			*
ローション	1			*
化粧品		1		
油性マーカー		1		
マスカラ		1		
牛乳	1		2	*
泥	1			*
マスタード	1			*
マニキュア	1	1		*
食用油	1	2		*
モーターオイル	1	2		*
ラテックス塗料	1			
油性塗料		1		
ピーナッツバター	1			*
香水	1			*
工作用粘土		1		*
陶芸用粘土	1		2	*
プリン	1			*
さび	1			*
サラダドレッシング	1			*
ソース	1			*
シャンプー	1			*
靴用つや出し剤		1		*
ショートニング	1			*
石鹸	1			*
ソフトドリンク	1			
しょうゆ	1			*
スパゲッティソース	1			*
タール		1		
茶	1			
タバコのヤニ液	1			*
トマトジュース	1			*
トマトソース	1			*
歯磨き粉	1			*
尿			1	*
ワセリン	1	2		*
おう吐物	1		2	*
水垢	1			*
ワイン	1			*
黄ばみ	1			*



シミ抜き剤の使い方：

- ・ シミが定着する前に、カーペット上にこぼれたものを直ちに全て除去する
- ・ カーペット表面の余分な汚れや水分を取る。汚れはへらかナイフで優しく削り取る
- ・ 場合によっては、見た目、感触、臭いからシミの種類を特定する
- ・ シミ取り剤を実際に使用する前に、目立たない小さな部分で必ず試す。これにより、カーペットに対して悪影響があるかどうか判断ができる
- ・ シミ取り剤を清潔な白い布に取り、シミの外側から中心に向かって優しく叩いてシミを布に染み込ませる
- ・ しつこいシミに対しては、直接シミ取り剤を適量かける。この際、かけすぎないようにする
- ・ シミが取れたら、清潔な水で繊維に残留しているシミ抜き剤を完全に取り除く
- ・ しつこいシミには、この手順をくり返して行う

汎用シミ抜き剤

1. 拾える汚れや拭きとれる汚れを可能な限り除去する
水分を含んだ状態の汚れの場合は清潔で色落ちしない布または吸収力のあるタオルで、シミの外側から中心に向かって叩く
決してこすらない
2. 汚れている箇所に軽くシミ抜き剤をスプレーする
しばらく待った後、清潔で色落ちしない布を適度にぬらし、スプレーした箇所を優しく拭き取る
布をすすぎ、シミの跡がなくなるまで繰り返す（決してカーペットをぬらし過ぎないこと）
3. 清潔な水でカーペット上に残留しているシミ抜き剤を完全に取り除いた後、乾燥させる

溶剤ベースのシミ抜き剤

1. 希釈しないで直接シミにかける
(タイルカーペットのバックグまで浸み込まないように適量かける)
2. 小さく柔らかいブラシ又は布を用いて、外側から中心に向かって軽く洗うように動かす
3. 吸収力のある布を用いて、表面から出来るだけ多くのシミ抜き剤を吸い取る
4. 清潔な水でカーペット上に残留しているシミ抜き剤を完全に取り除いた後、乾燥させる



酵素系／除菌ベースのシミ抜き剤

1. 汚れを可能な限り取り除く
2. トリガー式スプレーを用いて、シミ抜き剤を原液のまま直接シミにかける
3. シミ抜き剤を優しくカーペットになじませる
4. 余分なものは、布で吸い取る
5. 清潔な水でカーペット上に残留しているシミ抜き剤を完全に洗い除いた後、乾燥させる

注意：

スチーム洗浄には、前処理剤を使用します。この前処理剤は、圧力スプレーユニットで散布し、その後スチーム洗浄抽出機で取り除きます。

スチーム洗浄抽出機の使用には、室温程度から45℃までの清潔な温水を用います。清掃後、タイル1枚あたりに含まれる水分量を30グラム未満に抑えてください。

最善の結果を得る為に、シミができた場合には即座に対応してください。もし即座の対応が出来なかったときには、該当するカーペットケアおよびクリーニングガイドを参照してください。

頑固な汚れの場合、カーペット清掃業者に依頼が必要になることがあります。大量の生化学的汚染と接する恐れがあるときには、必ず保護服を着用してください。

処理剤を使いすぎたり安易に扱わないようにご注意ください。炎症を起こす危険性があります。



注意: トップローダー式
ダストバッグ機を推奨します。

注意: バッテリー駆動
バキュームはお勧めしません。

注意: ヘルステアにおいては、
DBA65以下の機材を使用して
ください。

注意: リュック型バキュームは
お勧めしません。

02 メンテナンス推奨機材

適切な機材を用いることは、適切なクリーニング剤や技術を用いることと同等に重要です。
カーペットメンテナンス用機材に関する基本的な仕様は、下記のとおりです。

バキューム(直立式ツインモーター)

入力電圧	8 アンペア
フィルター能力	0.3ミクロン以下
吸込力	152cm (60インチ) 以上の揚水 毎分2,548L (90cfm立法フィート/分) 以上にて
ブラシ	歯型ベルト駆動が望ましい 速度:2,500 - 3,500rpm 回転数/分 直径:3H"x 3 1/2H" ブラシ高調節機能は必須 自動調節設計が望ましい
作業幅	15インチ - 22インチ
ダストバッグ容量	300 - 400 立方インチ (約4.9~6.5L)

パイル・リフター

所要電力	
駆動モーター	1/2馬力
バキュームモーター	1 1/2~1 3/4馬力
ブラシ幅	およそ100mm;スパイラル 幅合計400mm - 植物性又はナイロン
ブラシ調節	自動高さ調節

スチーム洗浄エクストラクション

所要電力	10~15アンペア 220 - 240ボルト
バキュームモーター	1500 ワット
バキュームタイプ	3段階 バイパス
バキューム滑走部	300mm - 500mm
揚水力	2.5m - 3.5m 毎分約2,831L(100CFM立法フィート/分)
噴霧水量	2L/分 50 - 100PSIにて
タンク容量	15L 溶液タンク・回収タンクとも
ブラシモーター	90ワット 1/8馬力
ブラシ幅	250mm - 450mm V型ナイロン毛4列

注意: バッテリー駆動
バキュームはお勧めしません。

エクストラクション・コンパウンド・アプリケーション

所要電力	2~8アンペア 220/240ボルト
モーター	200ワット
2ブラシシステム	反対回転
ブラシ幅	250mm - 500mm
ブラシ速度	400 Rpm

結晶化シャンプーシステムドライエクストラクター 結晶化アプリケーション

所要電力	2 ~ 8アンペア
幅	約30.5~56cm (12~22インチ)
ブラシ	(2)約25.4~50.8cm (10~20インチ)

www.interface.com

South East Asia

Interface Asia
tel: 65-6478 1510
www.interface.com

日本

Interface Japan
tel: 81-3-5733 5211
www.interface.com

Beijing Studio

Interface China
tel: 86-10-6590 7810
www.interface.com.cn

Hongkong Studio

Interface China
tel: 852-2802 0838
www.interface.com.cn

Shanghai Studio

Interface China
tel: 86-21-6340 3868
www.interface.com.cn

Australia

Interface Australia
local toll free: 1800 008 101
www.interface.com

06/2013

